

令和4年度 第2回公民館運営審議会 議事概要

日 時：令和4年（2022年）12月19日（月） 18時30分～20時00分

会 場：豊中市立中央公民館 1階 集会場

出席者：青木 知男、秋山 京子、上田 千恵子、浦 耕太郎、大里 ルミ子、大濱 浩子、
十河 秀敏、野村 恭代、林 美輝、吉田 収子、渡辺 浩

欠席者：松山 鮎子

事務局：小野 雄慈(教育員会事務局長)、大澤 亮太(社会教育課長)、弘中 伸明(中央公民館長)、守屋 浩一(螢池公民館長)、山本 貢司(庄内公民館長)、田中 直之(千里公民館長)、前田 真吾(中央公民館副館長)、島津 智子(社会教育課副主幹)、田井 春奈(社会教育課主査)

傍聴者：1人

案 件：

1. 令和4年度公民館・公民分館事業の実施報告について
2. 豊中市の社会教育のあり方の検討について
3. 庄内コラボ開設の進捗状況について
4. その他

資 料：

次第

- 資料1 令和4年度公民館講座集計表【4月～10月分】(公民館順)
- 資料2 令和4年度公民館講座集計表【4月～10月分】(事業区分順)
- 資料3 豊中市の社会教育のあり方の検討について(案)
- 資料4 豊中市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書
令和3年度(2021年度)実施分より 一抜粋一
- 資料5 庄内コラボセンター・ショコラについて
- 資料6 令和4年度 公民館まつり実施報告
- 資料7 令和4年度 公民分館講座実施報告(10月までに修了したもの)
- 資料8 令和4年度 公民分館文化祭・体育祭の実施状況

議事概要：

◇司会 ●委員 ■事務局

1. 開会：

2. 案件

(1). 令和4年度公民館・公民分館事業の実施報告について

＜事務局より資料1、資料6、資料7、資料8の説明＞

●3点伺いたい。

まず、定員と参加者人数の合計を見ると、中央、蛍池、庄内は参加者が定員より多い。千里だけが、定員より少ないのはなぜか。

それから、zoomを利用したイベントを中央、蛍池、庄内はやっているが、千里だけが行っていないのはなぜか。

5段階評価のなかで、準備PRという項目があり、だいたい3から5だが、3、4、5の評価はどこに違いがあるのか。例えば、3は広報とよなかに載せただけ、4は広報とよなかとホームページに載せた、5は広報とよなかとホームページに載せるプラス各学校に配布物をまいたということ等

■1点目については、基本的には定員よりも、参加者が上回ることはない。想定より申込みがたくさんあったので、机を増やしたり、急遽会場を広げたりして、参加者の枠を広げて受け入れる場合もある。

■例えば千里公民館のパソコンフェスタ2022というイベントで、定員100人、参加数が38人となっているのは、会場に入場する人数を定員と設定しており、ミニ講座に参加して実際に席についてカウントした人数は38人だったということではないかと思う。また、zoom講座は公民館の催しではあがっていないが、地域連携センター事業としては実施をしている。

■中央公民館の「平和月間パネル展」は、特に定員はないのに、参加者数を17人と計上している。また、中央公民館の「夏休み学習サポート」は、その部分だけみると、5日間連続の事業なのに定員は1回当たりの定員を計上している一方、参加者数は5回の延べ参加人数を計上しているなど分かりにくい。今後、計上の方法を再考する。

■自己評価の項目の中で、参加者数と参加者満足度については、参加者数の実績やアンケートの結果から客観的に数値が決まるが、準備PRについては担当者の主観が入っている部分もあり、例えば、子ども、障害者、高齢者などにターゲットを絞った声掛けや、施設にチラシを持って行って説明した場合は高評価とする等、今後評価の方法について整理していき

い。

◇講座をやる場合広報というのはすごく大切なので、ぜひその辺りも検討していただきたい。

●各館が大学生ボランティアの方たちに学習指導などを行っているが、1回の謝礼金が、例えば中央公民館だと、大学生ボランティア6人に対して、謝礼金が2千円となっているのは、一人当たりで2千円なのか。

■一人あたりとなっている。

●それなら、トータルを書かないと実際いくら支払われたのか分からない。

■分かりやすい謝礼金の表記方法について検討していきたい。

●「SDGsは謎解きで学べ」は、一人の講師に5万円払っている。非常に専門性が高いから5万円ということなのか。突出しているなという気がする。それに比べて、刀根山高校の先生は地域のために頑張っておられるのに、2回は謝礼金が支払われているのに、3回目は払われていないのはなぜか。

2点目は平和パネル展だが、各公民館でよいテーマを設定してパネル展を実施されているが、この平和パネル展のテーマの決め方はあるのか。

3点目は子育て支援の取組みとして、埕池で「先輩パパ園長にきく」だが、父親対象にしたなら、全然集まらなくて、夫婦に対象を広げたらたくさん来たと所感に書いてある。子育ては両親でやるものではないか。特に、父親を集めて何かしたいとかそういった意図があったのか。

■SDGsの謝礼金が何故5万円になったのは、ご指摘の通り、専門性の高い講座ということで、東京の講師の先生にお願いした。ぜひ子どもたちにも分かってもらいたい内容であると考え講師を依頼した。1館で5万円というのは、負担になるので、他の公民館に声をかけて、3館合同で行い、オンラインも兼ねて実施した。

■刀根山高校の謝礼金についてだが、これまでは講師が現役の教員という事で謝礼金無しで実施してきたが、退職されて謝礼金を支払うことになった。3回目の事業は当初の計画時には上がっておらず急遽開催することになったのだが、既存の予算が足りなくなり、承諾いただいたうえで謝礼金は無しという事で実施した。来年度についてはきちんと予算要求したうえで、事業を行っていきたい。

■平和パネル展のテーマは、中央公民館の場合「難民について考える」、庄内公民館では「新型爆弾や原爆などの脅威」となっている。テーマについては公民館全体で、今年はこんなテーマについてやろうという調整まではできておらず、基本的には担当者から、これまでやってきたテーマや、別の角度からやってみたいテーマ等を提案してもらっている

平和月間については人権政策課が中心となって、それぞれの公民館や図書館、人権平和センターなど、それぞれの部局が平和月間にどんなことをやっているか、共有するシステムがあり、それをもとに平和月間のパンフレットを作成している。それを見ながら、今まではこういうのをやっていなかったとか、他の施設でやっているから、うちもやってみようとか、そういったことで、企画を決めている。

■「先輩パパ園長にきく」というイベントについてだが、ご指摘の通り、子育ては両親一緒にするものとする。とはいうものの、母親がばかりが子育てにかかりっきりというパターンも多いので、父親に少しでも子どもと接する機会を持ってもらい、その間、母親は自由に過ごしてもらうという意図もあり実施した。母親の方が申し込んできて「あなたいつてらっしゃいよと言われて、来た」という参加者もいた。結果的には、父親同士のさまざまな交流もあり、参加して良かったという意見もあったので、今後もいろいろな事業のパターンを考えていきたいと思う。

◇父親も交流して、一緒に子育てやっていくという、子育てのアンバランスを是正するという主旨で最初企画されたが、それでは、人が集まらなかったということですね。

●「SDGs は謎解きで学べ」は、3 館合同で実施され、これは zoom ということだが、対面の講座も実施したのか。それぞれの館が謝礼金を 5 万と書いているので、合同でやったことが分かりにくい。

■謝礼金はトータル 5 万円で、3 館で同時に開催した。講座自体はオンラインで、東京の講師の映像を見ながら学んでもらった。オンラインで自宅のパソコン等で受講する参加者と、最寄りの 3 公民館へ来てもらい、公民館の zoom を見て参加する参加者がいた。

●千里公民館だけ何故ないのか。

■千里は違うやり方で実施する予定にしている。

◇公民館まつりなどの視察に行った委員からなにか感想などないか。

●公民分館と公民館のまつりに行ったが、新型コロナがまだまだ沈静化していない状況の中

で、舞台発表をしなかったり、したりとか、内容もそれぞれの地域で工夫されているなど感じた。

●私も見学した。だいたい今年は小規模で、午前中だけとか、短時間のところが多かった。パネルの並べ方で、私のところでは、まっすぐ並べたり、横に続けて並べたりの作品展示だが、見学先では縦にしてV型にしたり、いろいろな並べ方をされているところがあった。展示が素晴らしく見えたので、来年は私のところもそういうふうにやってみたいと思った。

◇雨にもかかわらず多くの人に来ていてすごいと思った。

●皆さんとの見学会には参加できなかったが独自で蛭池公民館を見学した。一つ心に残ったのは、コーラスを発表されている反対の観客席の中で、すごくいい声で合唱されている方がいて、その人がいることで、観客がすごくなじんでいたなど、歌の力がすごく強いなど感じた。個人的な意見だが音楽はすばらしいと思った。

◇いつも受け身だけでなく、自分たちも参加することで、より深く音楽を楽しめる素晴らしい取り組みだと思う。

●先ほどから話題になっているSDGsだが、3館合同で5万円と予算も割いているが、評価が中央公民館は準備PR3、参加者数1、満足度も4これは他の取組みに比べると低い評価かなと思う。最近はやりだということ、子どもたちに興味を持ってもらえる内容なので、ちょっと残念だったのではないかなと思った。

1回あたりの謝礼金は単純に合計を書いて、下に内訳を書けば分かりやすいかと思います。例えば、1万2千円(2千円×6人)などとすれば、分かりやすいかと思う。

◇表記の工夫と、費用対効果も考えていかななくてはならないかなと思う。

●今年いろいろな分館が体育祭文化祭を実施した。規模を縮小しており、皆さん来られないのではと予想していたが、ふたを開けてみたら、予想以上に人が集まり、やはり地域の皆さんはいろんな行事に飢えていたのだなと思った。本当に明るく楽しく、どこの会場にもぎわっていたので良かったなと思っている。

◇近くでこういうことをなされているということは、本当にいいことだと思う。

●質問ですが、公民分館文化祭のオンライン文化祭で、このホームページというのはどういうことですか。オンラインでしたら、例えばzoomでしたら、何をやっていても見るという

のは分かりますが、ホームページというのはどういうイメージになるのか。

■資料8で言うと5番目に南桜塚オンライン文化祭というのがあるが、これは、南桜塚公民分館がウェブサイトを開設している中に、分館でやっている活動を動画で撮って、ウェブサイトにYouTubeの動画を貼り付けたり、グループ活動の絵画や書道などの作品の写真や動画を、ウェブサイトにアップしたりして、だれでもここにアクセスすれば見てもらえるというかたちで開いていた。

◇リアルタイムに一緒に時間にやるという形ではなく、好きな時に見られるということですね。

(2). 豊中市の社会教育のあり方の検討について

<事務局より資料3、資料4の説明>

●豊中の歴史についての講座を聞く機会があり、郷土資料館を見学して、豊中のことを魅力的に感じた。色々な方が訪れて行って勉強されたらいいなと思った。例えば小学校の授業の一環として、郷土資料館の見学会をすとか、学校だけでなく、公民館や公民分館の講座の一環として、見学会をして、皆さんに広まっていったらいいなと思う。

◇豊中の歴史や地域がもっている物語を皆でシェアできるといいと思う。

■小学校の見学会について、今年度は、担当の先生を対象に説明会の実施考えている。次年度以降に小中学生に来てもらい、豊中の歴史を学んでもらう予定である。

公民館との講座は具体的には話はしていないが、今回の社会教育のあり方の検討をまとめるにあたっては、それぞれ、図書館、公民館、社会教育課などが一緒になって、社会教育を進めていこうというのが今回の狙いなので、連携して講座を出来たらなと思っている。

●中学校の部活動の講師など部活動を担う人材もこういうところから見つけていくという考えはあるのか。

■中学校の部活動に関しては地域移行の話があるので、地域で活動している色々な文科系の団体や公民館の登録団体などが中学校の部活動で講師役として教えるという可能性も視野に入れ検討している。

◇移行してったら、学校の先生が教育活動に専念しやすくなると思う。

●分館長の立場で申し上げたいのは、必ずこういった社会教育の場合、学校と地域と家庭の連携という事が言われるが、校長先生によっては、学校教育が多忙すぎて、地域のことまで関わってられないというスタンスの方もいらっしゃるって、例えば、「コロナ禍だから学校に入ってはだめ」と言われることもある。そうすると当然公民分館というのは小学校を拠点としてやっているんで活動できなくなる。

例えば、「体育祭をいついつやりたいので、その時に校庭を使いたい」という話をしたら、「じゃあ校庭開放委員会へ行って、そこでとってください。」と対応されたこともあった。長年やっていて、地域に精通して理解されている方もいるが、校長先生または教職員に社会教育で、地域に協力するということの必要性を伝えてもらいたいと思う。

◇その辺り、学校との連携がさらに活性化するような形で今後組み込んでもらえるとさらにいいのかなと思う。

●防災計画が学校教育の場で行われているが、コミュニティ防災は社会教育の範疇にあると思うので、どこかに防災の文言がほしいと思った。

また、公民館の役割だが、「生活課題の解決」とあるが、生活課題というと、例えば生活困窮の問題もふくまれてくるし、各世界で実際に発生している生活課題が予想されるので、どちらかというところ解決まではいかないけれど、社会課題を取り上げるとか、そこに意識を向けるとか、そういった取り組みが公民館の役割かと思ったので、検討いただければと思う。

◇公民館の「公民」という部分、自分のことだけではない、みんなの事を考えるという意味合いも含まれているので、その辺りもいろいろ加味していただくといいと思った。また、地域とのつながりが、防災面でもいざという時に力を発揮するという観点を考慮するといいと思った。

他に、キャッチフレーズも「豊かに」という言葉を使うと、豊中らしさが出るのではないかと、皆さんにも何かあれば出してもらいたい。

また、学校関係の人はインクルーシブなまちづくりをどうするかとか、義務教育の観点とか、意見があるのではないかと。

●学校現場にいた時、子どもの成長を考えて地域の方々と取り組みを共にしてきた。子どもが一番小さい時には地域の色々な催しに参加して楽しむというところから始まって、だんだん中学年高学年になっていくと、自分たちがお手伝いをするというって、地域の担い手となっていく。それが中学高校に進むと、お手伝いから催しの中心になっていくというようなことをしながら、成長していく子ども達の姿も見えてきた。だから、地域全体としては、将来地域の担い手として成長させるために、今どのような取り組みが必要かということが具体的に分かっただらもっと取り組みやすい。子どもたちが地域で大人になった時、その地域の担い手に

なった時のことを想像して、今の時期は何をしたらいいのかということを、地域の皆さんで考えていき、それを積極的に子どもたちに働きかけていく、というようなことが大切だと思う。

それから、やはり社会教育というのは教育を受けることによって、地域社会、地域の幸福の実現を目指すことも一つの大きな目的である。学習だけだと人材の担い手がなかなか育っていかないが、学習したことが活動になって、活動が地域の幸福につながるという、目標の見える化みたいなことがあれば、人は積極的に学習するし、育っていくような環境ができる。

学校は、施設や設備等を提供して、支援しますよという事だけでなく、具体的な防災、環境といった地域の課題を意識して、教育活動を進めることが大事と思う。学校教育と社会教育とが両輪となり、地域の活動を育てていくというような取り組みもすすめてほしい。

◇個人の人生が豊かになることと、地域が豊かになっていく過程が見える、そこに行政が担う役割にはどういうことがあるのかと明確に書くと、さらにいいと思う。

社会教育主事のことは書いていないが、その資格を取った人が地域の人材としているので、そういう方の協力も得られるようにとか書いておけば、自分たちも活躍するポイントがここだと分かり入ることができると思った。

また、豊中だからこそ多様性の強調も豊中らしさなので、それが前面に出ると、よりいいのかなと思う。

●私は学校の教職員で、採用されて20年ぐらいになるが、その頃は地域の方と「ちょっと体育祭来てよ」と気安く付き合えて、一緒になれていたが、この10年学校現場がすごく忙しくなってしまう、しかも、いろいろとコンプライアンスだとか言われて、「特定の人との付き合いはだめだ」とか、「なぜあなただけ行っているの」とか、そのようなことが非常にきびしくなってきた。気持ちがあっても、自分だけ行ったら他の人の目が気になる。しかし、一方では学校と地域の連携は大事だと、社会教育は大事だよとか言われているので、地域の方と密接になることによって、学校ではできないことを、例えば地域の方に頼みやすくなる。それが、ひいては子どもたちを育てていくことにつながっていくので、地域との連携ができる人をパイプ役として学校現場においてもらうことが、その学校と地域の連携がよりしやすくなる一つの方法となるのではないかな。

◇学校で地域担当を決めると豊中の人的、社会的資源が活用できていいと思う。

●私はかつて東丘でコミュニティスクールに取り組んだ経験がある。学校にも色々な事業があり、地域教育協議会とか、地域連携ステーションとか、それぞれのところから、それぞれのお金がおりてくる。それぞれに代表がいて、地域の人と連携を図ってくれる人はそれぞれにつけられる。これは、日本全体で地域と学校が結びついているところが少ないので、国が

らおりてきた事業である。豊中市は公民分館があるので、分館がやってくれたら、一気に解決するのではないかと思い、東丘のコミュニティスクールの検討会で話したが、実現には至らなかった。

生涯学習について、講座を公民分館で持つとなったら、講座の終わる時間を下校の時間に合わせたら、子どもたちを講座に参加した地域の人が連れて帰ることができる。そういった面の活用であるとか、午後5時過ぎたら小学校は体育館が空いているので、地域に開放したらどうかとか、いうことを話していた。そんなことが庄内コラボで実現できないかなと思った。

◇学校と連携しやすくなる文言を、入れることをぜひご検討されたい。この案件については次回にも引き続き審議を続けていきたい。

(3) 庄内コラボ開設の進捗状況について

<事務局より資料5の説明>

◇2点だけ教えてほしい。センターに点字ブロックはあるのか。それと、多目的トイレがあるが、性的マイノリティの方が使う場合、名称が変わってくる動きがあるかと思うがそのあたりの予定はどうか。

■点字ブロックは、福祉のまちづくり条例があるので設置している。多目的トイレは名称を変更するとは聞いていないが、最新の設備で、利用しやすくなっていると思う。

●今の庄内公民館は、行政の地域説明会をする時などに使うホール的なスペースがあっが、今回は壁の間仕切りをとって大きなスペースをとるとか、ちょっとした住民説明会が開けるような場所はあるのか。

■庄内コラボセンターには、多目的室1と2が4階にあり、間仕切りが取れるようになっている。間仕切りを取ると100人使用が可能で集会なども開催できる。また、4階の講座室も100人収容の部屋となっている。

●庄内図書館だが、新しくなった図書館に移す場合に、新しく本が増えるという計画があるか。それから、囲碁や将棋を行う場合、新しい場所でも利用できるのか。

■庄内図書館の蔵書の数については正確な数字は手元にないが、今より極端に増えるということはない。特徴的なのは自習スペースがあり、一人で座って自習できる。この審議会も庄

内コラボで開催し、見学ができたらと考えている。

■囲碁や将棋については、3階の介護予防センターで行うことができる。そのほか公民館でも囲碁の登録グループがあり、引き続き公民館の部屋を使ってされる場合もある。

(4) その他

<事務局より、次回は令和5年3月に開催予定であること、その際、公民分館統合に伴う公民館条例施行規則改正の案件が提案される予定がある等の情報提供あり>

3. 閉会

◇以上で本日の公民館運営審議会の案件はすべて終了いたしました。皆様のご出席ありがとうございました。傍聴者の方もお疲れさまでした。